

県議選

“政治を変えよう！”多くの市民が立ち上がった 今後生きる選挙でした ご支援・ご協力ありがとうございました 日本共産党



上野たかし

ご支援をいただいたみなさんに心からのお礼を申し上げます。ありがとうございました。

「原発動かすな、暮らしを守る県政を、安倍政治許さない」との私の公約に、党派を超えて支持の輪が大きく広がりました。議席には及びませんでしたが、力をあわせれば政治は変えられるとの確信を強く感じることができました。

選挙後に若いお母さんから頂いたメールに、「子どもに上野さんからの礼を伝えると、えっ？落ちたの？じゃあ戦争起こっちゃうの？と言われました。立ち止まっていませんか」と書かれていました。その通りですね。立ち止まらず全力で頑張ります。引き続きご支援をよろしくお願いします。

「選挙で政治を変えよう」と多くの市民のみなさんが立ち上がった県議選。上野たかしさんを「市民と野党の共同代表」とし、議席獲得へ市民とともに、知恵と力がかつてなく出し合い、力を発揮した選挙でした。みなさんのご協力・ご支援に、心よりお礼を申し上げます。

今回の選挙は、定数が3から2へと削減されるもと、上野たかしさんは、前回票を上回る過去最高の4人に1人が投票。なお、自民党は前回より得票を全県で、14万票減りました。

今回、日本共産党 上野たかしさんは、3つの公約を掲げ、多く

市民との
市野党
共同代表

上野たかし
善戦するも惜敗

のみなさんの「政治を変えたい」の思いと響きあい、得票を伸ばす力となりました。

市民と野党の共同で政治
を変える年に

来年は、4月に統一地方選挙（取手は市長選、市議補選、7月には参議院選挙と続く選挙の年です。

今回、築き上げた「市民と野党の共同」を更に広げ、統一地方選挙、参院選で、国会・国民をなげろにする安倍政治をやめさせましょう。市政の転換をはかる市民の審判をくだす年としましょう。

県議選で問われた3つの争点

- ① 東海第2原発の再稼働はストップ
- ② 暴走する安倍政治NO
- ③ 県民の暮らしを守る県政をつくる

県議選結果

投票総数 34,963 投票率 38.29% (前回 56.82%)

党派	候補者名	得票数	率	前回(2014年)取手・得票数
自民	中村おさむ	10,439	30.19	15,537
自民	川口まさや	9,050	26.17	8,342
共産	上野たかし	8,588	24.84	7,757
無所属	佐藤りゅうじ	6,499	18.80	—

選挙結果は残念だが市民と野党の共同は一步前進



取手市議会議員
細谷 典男さん

市民と野党の共同という上野さんの呼びかけに賛同しました。県議選を契機として暴走する安倍政権にノーを突きつけることは一歩及ばず残念です。しかしながら、上野候補の善戦は確実にこの輪を広げたものと思います。



取手市民連合代表
遠藤 俊夫さん

上野さんの当選という形にならなかったことは残念。しかし多くの市民が力を合わせ、取手で市民と野党の共同が一歩前進した。今後の財産にしたい。



9条の会世話人
松浦 和子さん

1議席減は痛手でしたね。返す返すも悔しいです。でも得票数は伸びました。

「名前は出せないけど応援していますよ」という人、私の周りにもたくさんいます。これからの期待の星、上野さん。引き続き市民と野党共同の代表として働いて下さい。



1000人アピール
呼びかけ人
篠田 信吾さん

今回の選挙結果は、残念でならない。

投票者の25%しか東海第2原発再稼働反対の意見表示をしなかった事。原発反対の声が県議会に届かない。福島原発事故被害をもう忘れたと言うのか。

2019年 日本共産党新春の集い

1月19日(土)午後2:00～

取手市福祉交流センター多目的ホール

日本共産党取手市委員会・同後援会共催
お気軽にご参加ください

12月取手市議会 一般質問で議会紛糾

平成 28 年 6 月 2 日、市長と市職員が、市の利害関係者（一般社団法人マッチ・バコとりで）の理事から京都・祇園の高級料亭で接待・供応を受け、会食。その後、同利害関係者が理事である社団法人に、市から多額の補助金を支給した経緯が、今議会で細谷典男市議の一般質問から明らかとなり、議会は紛糾しました。

議会最終日、議会は宴会に市職員が同席したことを問題視し、市職員の倫理規程を定める条例を可決。しかし、日本共産党や細谷典男市議ら計 10 人の市議が求めた、地方自治法に基づき、自治体の長や議員の疑惑等の真相を究明する調査特別委員会（百条委員会）の設置を求める決議案は、保守や公明党などの反対（賛成 10 反対 12）で否決されました。引き続き、市民も参加しての事態の解明が求められます。

接待受け補助金？疑惑に応えよ

細谷典男市議質問 要旨

平成 28 年度は、産業振興課内の旅費が例年に比べ異様に高い。その理由は、市長が大阪講演・事例発表のための旅費（市職員 3 人が同行）が起因していた。市長講演から翌日にかけて、市から補助金を受けているマッチ・バコの現理事長の吉田氏も同行。大阪での講演後ハイヤーで京都に移動し宿泊。祇園のお茶屋で同氏から市長、職員が接待を受けた疑念が生じた。

平成 27 年度、とりで起業家支援ネットワーク（マッチ・バコとりで）の設立で、吉田氏は副理事長に。国の 4 千万円超の補助金が平成 27、28 年度まで続いたが、29 年度には減額になることを知った吉田氏が新たな補助金獲得のため市長等への接待・供応を図ったのではないかと拭い去れない疑惑が残る。真相の解明にはウソをつけば罰せられる「百条委員会」による調査が不可欠。

京都祇園で接待 受ける・利害関係者へ補助金疑惑

藤井取手市長

とりで起業家支援ネットワーク

市長等の疑惑・真相究明へ 「百条委員会」設置を求め 決議提案するも否決

今回の関係者は市長と補助金を交付されている団体の役員です。市長は、宴会費用の対価を支払ったと答弁していますが、支払いの証明がなされておらず、世間一般からは認められるものではありません。接待・供応か、政治倫理条例・公務員倫理規定に抵触する疑惑が残ります。よって、これを解明するためには、百条委員会による調査が必要です。

住民の代表である議員が 市長、及び職員 3 名の行為について、調査、解明することこそ市民の信頼にこたえるものです。

「百条委員会」設置に 反対議員

山野井隆 吉田 宏 石井めぐみ 赤羽直一
関川 翔 渡部日出雄 岩澤 信 小堤 修
齋藤久代 阿部洋子 染谷和博 落合信太郎
の各議員

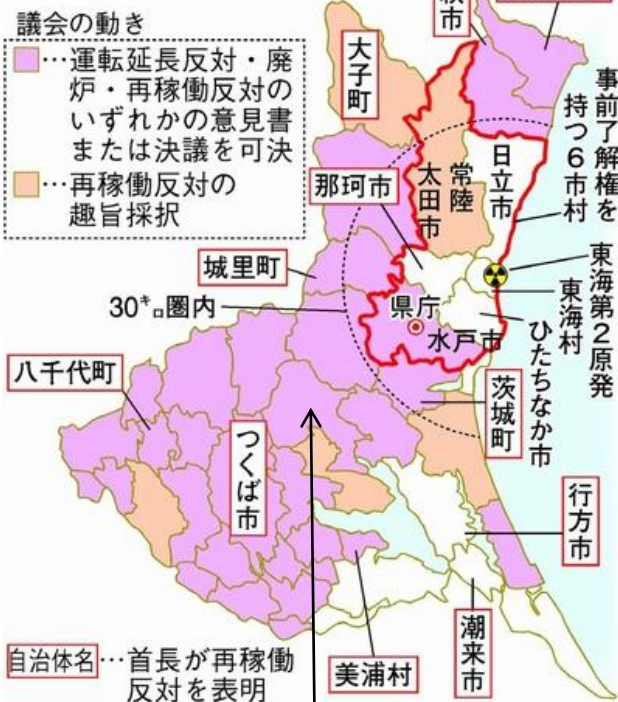
市長、原発再稼働に今回もだんまりの無責任

東海第 2 原発再稼働を原子力規制委員会が適合とする中、石岡市長など県内 12 の市町村長まで再稼働反対の態度が広がっています。

日本共産党市議は、福島原発で深刻な被害を受けた取手市長として市民の命に係わることから再稼働に反対すべきと求めました。市長は答弁せず副市長は「今後も見守る」との態度に終始しました。

県内市町村長にも広がる再稼働NO

茨城県内34市町村議会が 東海第2原発再稼働反対



12月7日石岡市長も再稼働反対表明

12月議会 暮らし、安心安全の街へ

請願・意見書

井野・戸頭団地自治会請願提出

- URへの家賃等減免を求める
請願・意見書（全員賛成）
関戸議員他2名紹介議員

日本共産党 意見書(案)提出

- 消費税 10%増税やめよ(否決)
- 国庫負担を増やすなどで、国保税の引き下げを（否決）

政治倫理 条例改悪

議員の資産及び所得報告義務を削除する

12月議会は、議員の責務などを定めている「政治倫理条例」のうち、毎年提出していた議員の資産及び所得報告義務を削除する改定を賛成・反対同数の中、入江議長の賛成で可決しました。

議員等の資産及び所得を市民の監視のもとに置き、「政治と金」の問題で行政がゆがめられることの無いように設けた報告義務の削除は、過去の取手市議の誤りを繰り返すことになりかねません。